

1. これまでの経緯と整備の目的

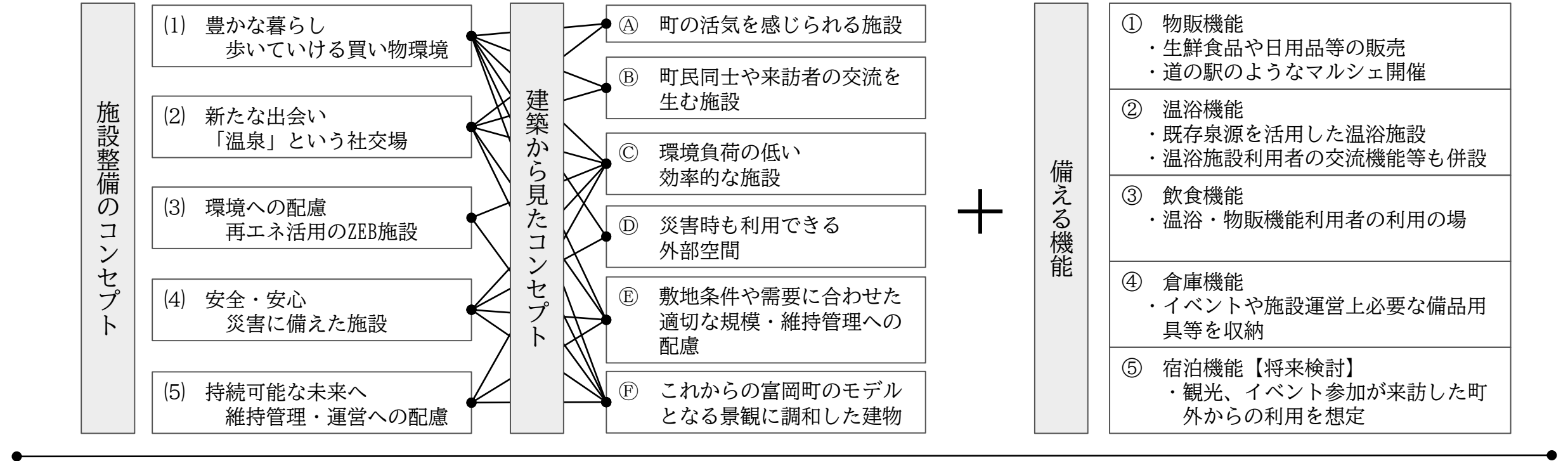
- 2023（令和5）年4月1日に旧特定復興再生拠点区域の避難指示が解除され、帰還困難区域とされたこの地域は、人々が集い、豊かに暮らし始める地域へと生まれ変わり、誰もが復興の息吹を感じとれる地域を目指している。
- 当該地域は、都市公園が位置し交通網も充実。かねてから良好な住宅地が広がる地域として発展してきた地域であるが、除染解体に伴って健康増進施設が喪失。その跡地利活用こそが復興の要となる。
- このため、令和2年度には「富岡町健康増進施設整備基本計画」を策定。従前施設が有する健康増進機能を踏襲するとともに地域住民の交流施設とし、今後における町内居住者数や交流人口、さらには町の財政運営等を考慮した施設規模を縮小する計画としたが、先行き不透明な社会情勢、新型コロナウイルスの拡大等によって現在施設の整備には至っていない。
- 本計画では、当該地域に求められる施設の機能を再整理するなど、先の整備基本計画を見直しするとともに、様々な試算の再分析や今後の財政シミュレーション、施設計画の諸条件等を可能な限り示し、施設の整備方針や基本的な計画内容を定めることを目的とする。

2. 整備方針等

- 従前計画は「特定復興再生拠点区域に必要な施設」とし、建設することを重視。本計画では、施設の必要性や整備方針等を明らかにした。

整備方針	町内での暮らしに、“楽しみによる心の豊かさ”を	施設の方向性	主に、町内居住者が利用し、コンパクトで誰にでも親しまれる施設
------	-------------------------	--------	--------------------------------

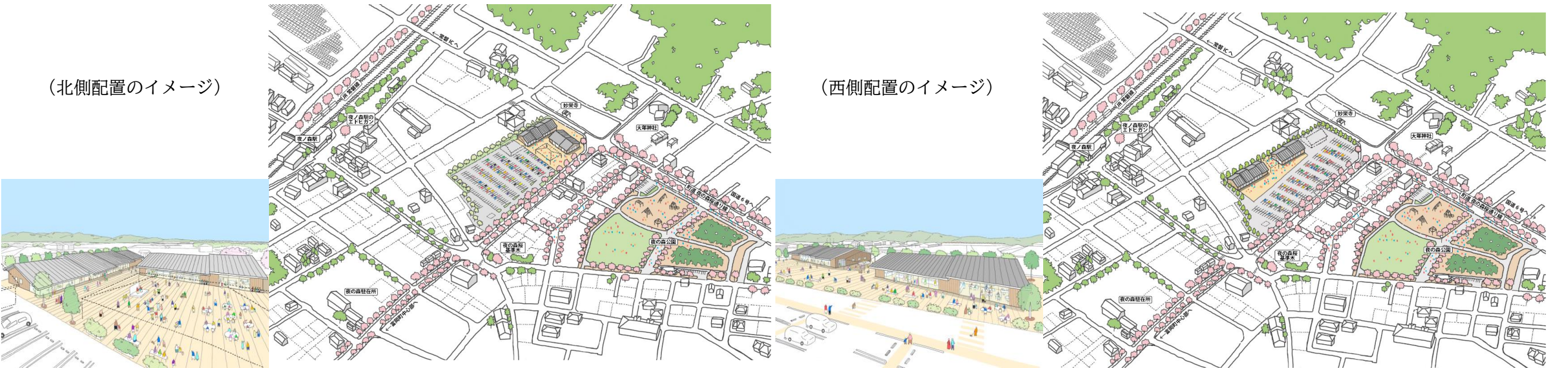
3. 方針に基づいた施設と財政負担



シミュレーション		ライフサイクル（50年）コスト：約56億円（建設約12億＋運営費約32億円＋改修及び解体約12億円）			
	利用者数（約96,000人）	規模（約15,400㎡）	整備費（約12.4億円）	維持管理（約0.64億円）	
物販施設	1年間あたり約86,000人	約400㎡	約2.4億円	1年間あたり約0.15億円	
温浴施設	1年間あたり約10,000人	約600㎡	約4.5億円	1年間あたり約0.49億円	
その他		外構含めて、約14,400㎡	約5.5億円	※人件費を含みます。 ※リフレ富岡の運営費を基に概算したため 実際には変動があります。	

4. 配置計画（案）

- 夜の森公園等の周辺施設や道路から「賑わい」を感じられる建物配置と、利用しやすい広々駐車場を確保。
- 国や県補助金を有効的に活用する観点から分棟建て。物販施設や温浴施設に続き、住民交流を視野に入れた調理場や屋外テント等も順次整備。



- 【特徴】

桜並木とのつながりを意識した配置。施設配置の自由度が高く道路から賑わいを感じられる。
- 【特徴】

施設へのアクセスを意識した配置。道路に対して正面性を確保しやすい。

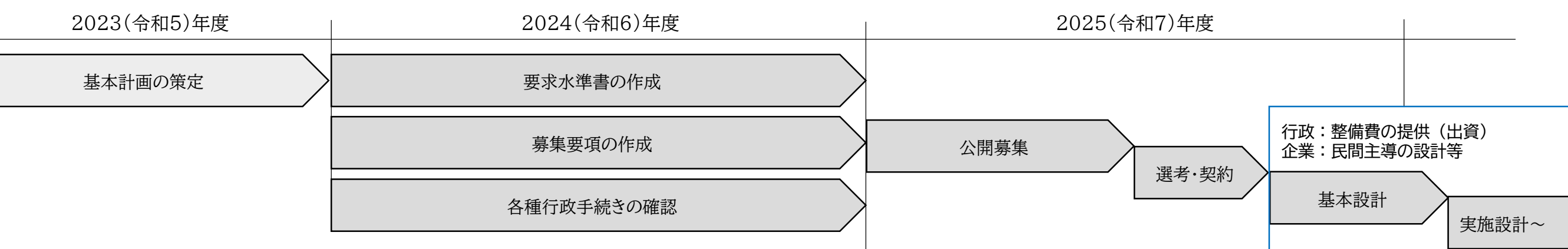
5. 整備手法

- 民間の力を最大限活用することとし、「DB0方式」で整備を進める。
- 【DB0方式による官民役割】
- 町は、土地や建物の財産を保有するかわりに整備資金を調達する。
民間企業は、町が準備した資金等をもって、設計・建設・管理運営をする。

6. 基本計画後における進め方

- 本計画で、施設の整備目的や整備コンセプト、シミュレーションに基づく施設規模や財政負担などを明示したが、町の意向と民間企業の意向と合致はしない。
- このため、本計画を基にサウンディング調査を進め、要求水準書（いわゆる整備仕様書）を作成。その後、公開募集による企業選定、企業との締結、企業による着手と順を踏んで施設を整備する。
- 並行して、泉源の活用や土地開発等の行政手続きを再確認する。

7. 整備スケジュール



2024（令和6）年度：要求水準書等作成
2025（令和7）年度：公開募集・事業者選定
それ以降は、運営事業者による整備スケジュールによる。